

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771400243		
法人名	株式会社 ひまわり		
事業所名	ひまわりの家		
所在地	高松市香川町大野901-1		
自己評価作成日	H23.9.13	評価結果市町受理日	平成22年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771400243&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771400243&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年10月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣近所の方がボランティア組織をつくり、日替わりで顔を見せてくれ、移動に手をかけてくれたり、レクリエーションに関わってくれたりと交流が図れている。食事内容も充実しており、有資格の指導のもと、美味しいいただける工夫と全て手作りで心のこもった食事を提供している。食材の中には、ボランティアや入居者、職員が協力して取り組んでいる家庭菜園「ひまわり農園」で収穫された、季節の新鮮な野菜が豊富に使われている。野菜作りに励んでいる入居者の生き生きとした姿は頼もしい限りである。また、毎日朝・夕の散歩先が「農園」を経由して、その折に収穫した果物等が日々のおやつ作りの材料ともなっている。また新しく併設された、多機能ホームひまわりとも交流が図られることで、利用者の生活にもより一層のメリハリができ、充実した日々が送れている。多機能とグループホームの間にできた中庭は、利用者の憩いの場となり有効活用できている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

入居前から日課としていたウォーキングを、入居後も本人のニーズに沿ってこれが継続している。月2回、昼食は個人の好みを選択できる日と決め、外食、出前、手作りと楽しい食事タイムとなっている。職員は、常に入居者に寄り添い、話をし、ニーズを引き出して、それに応えようとする姿勢が見られる。事業所は地域の一員という意識を強く持って、職員入居者は近くの公園の除草に取り組んでいる。近隣の住民が、自主的に事業所を応援するボランティア組織をつくり、行事や外出時の付き添い、農園作業の手伝い等が長年継続されている。また、運営者は職員の研修、資質向上に熱心で、10名のケアマネジャーを誕生させている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	グループホームひまわりの家( I ユニット)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義と役割を理解したうえで、独自の理念をつくり、共有し意識付けのため毎日の朝礼で唱和し実践につなげている。ひ、ま、わ、り、について、ひとつひとつに込められた意味を深く掘り下げ、具体的に理解したうえで、日々のケアに取り組んでいる。	当事業所の「ひとにやさしく、まごころこめて、わをたいせつに、りんじんとともに」という理念は、地域密着型サービスの本旨に合致している。事業所では、このひとつひとつの言葉の意味を職員に問い、話し合っ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員と共に行うなど、地域の一員としてつながりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園が活用でき、そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して交流が図れている。	入居者は、地域の行事に参加したり、職員と共に近くの公園の除草作業をする等、地域の一員としてのつながりを大切にしている。事業所は、一人で行ける方には、一人で近くのスーパーへ買い物に行っていただく等、入居者の能力を最大限引き出すようにしている。スーパー店員とも顔なじみになり、協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で、困りごとがある方の情報を、地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターより講師に来ていただき、認知症サポートについて学ぶ機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で出された提言を、職員に周知し、話し合いや意見交換の場を持ち、サービス向上に活かしている。会議には、職員代表として順番に参加してもらうようにして、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。	会議には、代表者や管理者の他、入居者2名と職員代表も交代で参加している。会議では、入居者がホームで満足した暮らしをしていることを生き生きと語り、場を和ませることがある。会議の後、職員会議で報告すると共に、記録を閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、アドバイスをいただきサービスの質の向上に努めている。有資格がある職員が、口腔ケアについて指導するなど、地域事業にも協力している。	市介護保険課や地域包括支援センターと行き来する機会があるので、相談、助言を受け、サービスの質の向上に努めている。地域包括支援センターから講師を招き、「認知症サポート」について学習会を実施した。	

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害を認識しており、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。弊害認識のため勉強会も行っている。	年間の職員研修計画に「身体拘束について」を取り上げ、学習するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。、玄関の施錠もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。本人の受け止め方により、誤解を受けないように十分な配慮が必要なことを周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば勉強していきたい。現入居者について必要な人は出ていない。今後、必要となる入居者に備えて、早い機会に研修を行い、実践できる体制を備えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに、不安がないように誠実に説明を行い、理解や納得が得られるように対応している。家族と一緒に目を通し、声に出して一つ一つ丁寧に説明している。疑問点や質問に、その都度答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多い。来居時に意見や要望を出してもらうように働きかけ、出された意見や要望には、速やかに運営に反映させている。家族から得た新たな情報は、すぐケアに活かしていけるように取り組んでいる。	面会・来居の都度、家族に意見や要望の有無を聴くようにしている。あれば、速やかに改善し、要望に応えるようにしている。また、行事は、家族の参加が得やすい休日に計画し、案内している。この時も要望、意見を聴き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、積極的に聞くようにし、相談のうえ、運営に反映させている。職員会では意見を出し合い、出された提案、意見は吸い上げ、よりよい運営に活かしている。言いやすい関係ができています。	月1回の職員会議等では、職員の意見や提案を聴き、運営に活かすようにしている。運営者は、職員の資質向上に意欲的で、これまでに10名余の介護支援専門員を誕生させている。職員も楽しく働いており、定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。子育て中の職員の応援には、特に配慮している。		

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は、職員に情報を出し、参加する機会をつくっている。参加者は研修報告書を出し、質の向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分に話し合い、戸惑うことなくホーム生活が送れるように傾聴し、受け止め信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるか不安に思っている想いを受け止め、安心していただけるように何事も隠さず相談しながら対応しており、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を理解し、戸惑うことなく生活が送れるようなサービス利用の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び、支え合う」関係づくりが築けている。「入居者から得られる知恵」が、家庭を持つ職員の生活に活かされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めたうえで、家族が疎遠になることがないように、交流の機会を設けたり、面会をお願いする等、働きかけている。利用者、職員が一体となって共有し、支え合う温かみのある家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。		

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問がある。本人の付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。居室に案内し、お茶等を用意したり、ゆっくり時間が過ごせるように配慮している。	入居者のもとへ知人や友人が訪ねて来たり、馴染みの散髪屋に行ったり等している。入居者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しいひと時が過ごせるように、人間関係にも配慮したうえで、関わり合い、支え合えるような支援を心がけている。 日頃から気の合う入居者の見極め、観察を密にして、無理なく交流が保てるように席の配慮にも工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ホームとの関わりを希望される家族等には、安心していただけるように、関係を断ち切らないで、付き合いを大切にしている。（お見舞いや電話連絡等）		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意向は出てこない入居者についても本人の心の奥に思いをいたし、何かしてあげられることはないか意見を出し合っている。また、入居者の生活習慣の継続には家族の話し合いのもと、本人の意向に添った対応をしている。	職員は、入居者一人ひとりに寄り添い、話しや気持ちを聴き、ニーズの把握に努めている。意思表示が困難な人には、その人の心の奥の思いを推し量り、家族とも相談してその把握に努め、本人が満足してもらえるようなサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族からの聞き取りで把握に努め、入居者の生活を活かした支援ができるように努めている。「私の暮し情報…」に要約して整理しており、それをもとにコミュニケーションを図ったり生活支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で個々の過ごし方や、有する能力、心身の状態等、現在の状況を総合的に把握するように努めている。朝・夕の申し送りや情報を共有している。変化があれば、その都度話し合い内容と対応を共有できるようにしている。		

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあった計画作成に努めている。定期的に話し合い、それぞれの見方、考え方の意見交換を行い、家族の思いも取り入れた計画を作成している。大きな変化が有る無しに関わらず、3か月ごとに計画を作成している。	原則、3か月ごとに計画を見直している。その際、家族の思いや意見も聴き、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を充実させ、その内容（情報）を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能ホームが併設されており、その日の利用状況により、グループホームからも交替で、レクリエーションなどに一定時間内参加できている。小規模多機能ホーム利用者の訪問もあり、交流が図られている。 面会時には配慮しており、いつ来ても良いようにしている。外出や外泊についても柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。また、消防訓練の協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診察や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。	入居者の多くは、協力医療機関(谷本内科医院)を経て入居しているため、かかりつけ医でもある。同内科は、本事業所から200m位の所に位置し、24時間体制の診療や往診が可能である。他の医療機関受診の必要あるときは、職員が送迎支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能ホームの看護師との連携もあり、また看護職員がグループホーム内に配置されており、日常的に健康管理に留意している。支援医療機関と連携し、医療活用の支援をしている。		

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療が受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように、医師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族等と交えて話し合いの機会を設け、希望に添えるように体制を整えており、方針を共有している。	終末期等をどうするかを、入居時に家族と話し合っている。事業所は看取りを含めた介護が可能であることを、家族に伝えて意見を聴いている。その時が近づいたとき、再度、医師を混えて家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるように、緊急時の対応マニュアルに添った対応ができるように、実践力を身につけるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は、年2回行っている。訓練には地域の人々や、他の事業所の協力が得られている。ボランティア、職員、入居者で協力して、全入居者分の防災頭巾も作り、備え付けている。災害時には、地域住民の受け入れについても具体化する体制を検討している段階にある。	火災の避難訓練は、地域住民の協力も得て、年2回実施している。年1回は校区の防災訓練があるので、職員を派遣して学習させている。地域の災害時には、事業所機能を活かして、何か被災者の援護に協力できないか、検討中である。(炊き出し、宿泊等)	火災発生時は、隣接住民の協力が不可欠なので、その協力体制を整えておく必要があると思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねるような声かけをしないよう、職員同士で注意し、声をかけあっている。トイレや入浴介助時のプライバシーに配慮した空間の確保や、居室はノックしたうえで、入居者の了解を得てから入室するなど周知している。	入居者のプライバシーや誇りを傷つけないような関わりを心がけている。不適切な声かけ等がみられたときは、職員同士で注意し合っている。また、トイレや入浴の際もプライバシーに配慮した介護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が決定できるように選択肢を提示し、声かけしている。外出希望にも添えるように支援している。意思疎通が困難な方については、表情などを読み取るようにしている。		

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを尊重し、その日の体調を見計らい、その動きや状態に合わせた関わりで、1日の過ごし方を希望に添って支援している。行事の参加についても、本人の意向を伺い尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに来てくれる美容師を利用している。低料金でボランティア的な面も見られる方で、馴染みの関係にあり、髪を整えてもらいながらの会話もはずんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの健康状態に合わせて、調理や盛り付けを変更している。月に2回の希望献立の日は、食べたい物を取り入れている。 一緒に買い物に出かけ、食材選びも利用者のアドバイスも取り入れ、買い物の参考にしている。	高齢者の楽しみの一つである食事については、最大の配慮がされている。農園で採れた新鮮な野菜や果物を使った料理やおやつを提供している。その過程に入居者も参加している。月2回、各自好みの食事が取れる日を設け、外食、出前、自前で調理する等、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っており、バランスの取れた食事内容が提供できている。水分量の確保に努めている。好き嫌いの把握により、好みの物を提供したり、調理に工夫をこらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助にて口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。個々の入居者の口腔状態に合わせたケアを、有資格者の職員が中心となって行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができる方が限られており、一部の方以外については、誘導が困難である。自主トイレの方については、本人が困らないようにさり気ない支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを活かしてトイレに誘導し、気持ちよく排泄ができるよう支援している。その積み重ねで全く失禁がなくなった入居者がいる。	



グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便につながるように食事内容に工夫を凝らし、個々に応じた予防に取り組んでいる。季節に応じて、黒豆茶やゴーヤジュース等を用意している。おやつも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特殊入浴は、週2回行っているが、他にも手、足浴も取り入れている。普通入浴も週3回以上で、希望があればいつでも入れるようにしている。拒否することがあっても、再度時間を置いてから声かけをしている。本人の「入りたい」タイミングに合致するように、時間差で声かけをチャレンジしている。	多くの入居者は入浴を楽しみにしているが、拒否的な人もおり、根気よく浴場まで誘導するようにしている。浴室では、入居者との会話が弾み、入居者を理解する手がかりともなっている。昼間の入浴を基本にしているが、夜間希望者にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを家族より聞き、参考にしている。体調や本人の希望によって、日中少し横になったり、休息できる体制を整えている。居室に行かずとも横になれるソファや和室へ誘導することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、それを活かせるように、生活の中でそれぞれが好きなこと、得意なこと役割を持ってもらっている。感謝の言葉を伝え、生きがいとなり、自信回復につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別の外出には、朝・夕の散歩、ひまわり農園での作業などがあり、全体での外出も計画して、戸外に出かけられるようにしている。家族やボランティアの協力を得て実施している。家族の方もお墓参り等に連れ出してくれている。	行事外出の他、買い物や農園に出かけたり、一人で、ウォーキングを日課としている入居者もいる。単独で外出できる入居者に対しては、それを認めている。行事外出の折は、家族やボランティアの協力を得て実施している。	

グループホームひまわりの家（Iユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持しておらず、ホーム側で管理しているが、支払い時には、お金を自分から払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯電話を持って来ておられる方もおり、コール時には直接会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模多機能ホームとの間には、広い中庭があり、季節感が得られるように工夫されている。身体を動かすことができるゆったりとした空間となっている。絵や作品を飾り、落ち着いた空間を作り出している。季節に応じ工作し、作品を展示できるスペースもある。職員指導により作品を作りあげ、季節ごとに廊下に張り出している。	ホームの壁には入居者の作品が飾られ、各部屋の前には、顔写真と名前、それにボランティアが作ってくれたという紙細工作品がつるされていて、何とも類笑ましい装飾となっている。玄関前の中庭は、広く、長く、歩きやすい道が延びていて、軽い散歩が楽しめる。所々にベンチや椅子が置かれ、リラックスして季節の花々や樹木を眺めることができる。また、外の車や人の行き交う様子を目にすることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要な時は和室や居室、中庭を利用している。ゆっくり休めるようにソファを設置したりクッションを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅時での居室の再現を、家族に協力依頼している。使い慣れた家具や寝具、飾り物を持ち込み、本人の安心できる居場所づくりができています。	家族の協力を得て、在宅時に使い慣れた家具類を持ち込んでもらい、レイアウトを工夫して、わが城を築いている入居者が多い。自宅から持参していない人には、職員が援助して居心地良く過ごせる居室の工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し、自らリハビリを行ったり個々にあった椅子を置くなど、安全な環境づくりができています。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義と役割を理解したうえで、独自の理念をつくり、共有し意識付けのため毎日の朝礼で唱和し実践につなげている。ひ、ま、わ、り、について、ひとつひとつに込められた意味を深く掘り下げ、具体的に理解したうえで、日々のケアに取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員と共に行うなど、地域の一員としてつながりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園が活用でき、そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して交流が図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で、困りごとがある方の情報を、地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターより講師に来ていただき、認知症サポートについて学ぶ機会を設けた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で出された提言を、職員に周知し、話し合いや意見交換の場を持ち、サービス向上に活かしている。会議には、職員代表として順番に参加してもらうようにして、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、アドバイスをいただきサービスの質の向上に努めている。有資格がある職員が、口腔ケアについて指導するなど、地域事業にも協力している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害を認識しており、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。弊害認識のため勉強会も行っている。

グループホームひまわりの家（Ⅱユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。本人の受け止め方により、誤解を受けないように十分な配慮が必要なことを周知している。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば勉強していきたい。現入居者について必要な人は出ていない。今後、必要となる入居者に備えて、早い機会に研修を行い、実践できる体制を備えていきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに、不安がないように誠実に説明を行い、理解や納得が得られるように対応している。家族と一緒に目を通し、声に出して一つ一つ丁寧に説明している。疑問点や質問に、その都度答えている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多い。来居時に意見や要望を出してもらうように働きかけ、出された意見や要望には、速やかに運営に反映させている。家族から得た新たな情報は、すぐケアに活かしていけるように取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、積極的に聞くようにし、相談のうえ、運営に反映させている。職員会では意見を出し合い、出された提案、意見は吸い上げ、よりよい運営に活かしている。言いやすい関係ができています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。子育て中の職員の応援には、特に配慮している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は、職員に情報を出し、参加する機会をつくっている。参加者は研修報告書を出し、質の向上に活かしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分に話し合い、戸惑うことなくホーム生活が送れるように傾聴し、受け止め信頼関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるか不安に思っている想いを受け止め、安心していただけるように何事も隠さず相談しながら対応しており、信頼関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を理解し、戸惑うことなく生活が送れるようなサービス利用の対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び、支え合う」関係づくりが築けている。「入居者から得られる知恵」が、家庭を持つ職員の生活に活かされている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めたくえて、家族が疎遠になることがないように、交流の機会を設けたり、面会をお願いする等、働きかけている。利用者、職員が一体となって共有し、支え合う温かみのある家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問がある。本人の付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。居室に案内し、お茶等を用意したり、ゆっくり時間が過ごせるように配慮している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しいひと時が過ごせるように、人間関係にも配慮したうえで、関わり合い、支え合えるような支援を心がけている。 日頃から気の合う入居者の見極め、観察を密にして、無理なく交流が保てるように席の配慮にも工夫している。
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ホームとの関わりを希望される家族等には、安心していただけるように、関係を断ち切らないで、付き合いを大切にしている。（お見舞いや電話連絡等）
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意向は出てこない入居者についても本人の心の奥に思いをいたし、何かしてあげれることはないか意見を出し合っている。また、入居者の生活習慣の継続には家族の話し合いのもと、本人の意向に添った対応をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族からの聞き取りで把握に努め、入居者の生活を活かした支援ができるように努めている。「私の暮し情報…」に要約して整理しており、それをもとにコミュニケーションを図ったり生活支援に活かしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で個々の過ごし方や、有する能力、心身の状態等、現在の状況を総合的に把握するように努めている。朝・夕の申し送りや情報を共有している。変化があれば、その都度話し合い内容と対応を共有できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあった計画作成に努めている。定期的に話し合い、それぞれの見方、考え方の意見交換を行い、家族の思いも取り入れた計画を作成している。大きな変化が有る無しに関わらず、3か月ごとに計画を作成している。

グループホームひまわりの家（Ⅱユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を充実させ、その内容（情報）を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能ホームが併設されており、その日の利用状況により、グループホームからも交替で、レクリエーションなどに一定時間内参加できている。小規模多機能ホーム利用者の訪問もあり、交流が図られている。面会時間には配慮しており、いつ来ても良いようにしている。外出や外泊についても柔軟に対応している。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。また、消防訓練の協力も得られている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診察や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能ホームの看護師との連携もあり、また看護職員がグループホーム内に配置されており、日常的に健康管理に留意している。支援医療機関と連携し、医療活用の支援をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療が受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように、医師との連携に努めている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族等を交えて話し合いの機会を設け、希望に添えるように体制を整えており、方針を共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるように、緊急時の対応マニュアルに添った対応ができるように、実践力を身につけるように努力している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は、年2回行っている。訓練には地域の人々や、他の事業所の協力が得られている。ボランティア、職員、入居者で協力して、全入居者分の防災頭巾も作り、備え付けている。災害時には、地域住民の受け入れについても具体化する体制を検討している段階にある。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねるような声かけをしないよう、職員同士で注意し、声をかけあっている。トイレや入浴介助時のプライバシーに配慮した空間の確保や、居室はノックしたうえで、入居者の了解を得てから入室するなど周知している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望献立の日があるが、なかなか言葉が出ない人には、いろいろな食べ物を試し、選んでいただいたり、いくつかの選択肢を提案し、希望が言えるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩が日課」の入居者の希望を受け入れ、家族とも十分に話し合いのうえ、自由に散歩してこられるように支援できている。不測の事態に添えて、連絡していただけるように、ネームプレートを持たれている。近隣の方にも見かけたら声かけしてもらえるように協力依頼している。

グループホームひまわりの家（Ⅱユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容に関しては、ホームに来てくれる美容師を利用している。ボランティア的な面もあり、皆が気に入っており、この日を楽しみにしている。自分の行きたい理容院に出かけたりしている方もおられる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に副食作りに取り組んだり、盛り付けや片付けをしている。また、ひまわり農園の野菜作り、収穫も積極的に参加してくれている。「ひまわり農園でとれた野菜…」と話題を提供し、食卓がにぎわっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っており、バランスの取れた食事内容が提供できている。水分量の確保に努めている。好き嫌いの把握により、好みの物を提供したり、調理に工夫をこらしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力施行の方もおられるが、毎食後の声かけを行い、口腔ケアができるように働きかけている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自主的にトイレができている方が多いが、用足し時間が重なることで支障が出ており、可能な範囲で使用先の誘導を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一部便秘の訴えがある。本人の思いを受け止め、運動や散歩を促し、時に緩下剤を併用することで対応し、飲食物を工夫して摂取することで予防に努めている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	普通浴は週3回以上は確保しており、希望が出たときも可能な時間帯であれば対応している。毎日入るのを希望している方もおられ対応している。

グループホームひまわりの家（Ⅱユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて、皆を過ごす時間を増やしたりしている。夜間は十分睡眠が取れており、昼夜逆転などの問題は発生していない。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩を日課として過ごし、体操に取り組むなど、活力のある日々を送っている。嗜好品を求めて買物に出かける等、気分転換も図られている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出には朝・夕の散歩、ひまわり農園での作業などがあり、全体での外出も計画して、戸外に出かけられるようにしている。家族やボランティアの協力を得て実施している。家族の方もお墓参り等に連れ出してくれている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	自分で管理し、買い物や受診時等、財布から支払っている方もおられる。無駄使いたないように家族に声かけしてもらったり、中身チェックをお願いしている。事業所管理の方も居られるが、買い物時には自分で支払うように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、それを使って自ら電話できるようにしている。暑中見舞いや年賀状は、職員指導により本人が書きあげ、投函までをサポートしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や作品を飾り、落ち着いた空間をつくりだしている。季節に応じ工作し、作品を展示できるスペースもある。展示作品については、皆で協力し合って制作し、和気あいあいとした中で、盛り上がりながら完成させている。

グループホームひまわりの家（Ⅱユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階や2階には大きなソファを置き、それぞれが思い思いに過ごせるような居場所を用意している。デッキにも椅子を置き、庭を眺めながら会話できるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの家具など持込み、居心地良く過ごせるようにしている。趣味が居室でもできるように、家具を持ち込んでおられる方もいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し、自らリハビリを行ったり個々にあった椅子を置くなど、安全な環境づくりができています。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義と役割を理解したうえで、独自の理念をつくり、共有し意識付けのため毎日の朝礼で唱和し実践につなげている。ひ、ま、わ、り、について、ひとつひとつに込められた意味を深く掘り下げ、具体的に理解したうえで、日々のケアに取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近所の公園の草抜きを職員と共に行うなど、地域の一員としてつながりを大切にしている。近隣のボランティアさんの協力で、ひまわり農園が活用でき、そこで収穫されたものを近隣の方にもおすそ分け等して交流が図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者の生活で、困りごとがある方の情報を、地域ボランティアの方から伺い、協力できることで対応している。地域包括支援センターより講師に来ていただき、認知症サポートについて学ぶ機会を設けた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議で出された提言を、職員に周知し、話し合いや意見交換の場を持ち、サービス向上に活かしている。会議には、職員代表として順番に参加してもらうようにして、そこで話し合われていることがより身近に感じ、共有していけるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や市担当者とも行き来する機会があり、アドバイスをいただきサービスの質の向上に努めている。有資格がある職員が、口腔ケアについて指導するなど、地域事業にも協力している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害を認識しており、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。弊害認識のため勉強会も行っている。

グループホームひまわりの家（Ⅲユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を持ち、「虐待は許されないこと」の認識の徹底を図っている。言葉の虐待にも注意を払い、防止に努めている。本人の受け止め方により、誤解を受けないように十分な配慮が必要なことを周知している。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば勉強していきたい。現入居者について必要な人は出ていない。今後、必要となる入居者に備えて、早い機会に研修を行い、実践できる体制を備えていきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書をもとに、不安がないように誠実に説明を行い、理解や納得が得られるように対応している。家族と一緒に目を通し、声に出して一つ一つ丁寧に説明している。疑問点や質問に、その都度答えている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多い。来居時に意見や要望を出してもらうように働きかけ、出された意見や要望には、速やかに運営に反映させている。家族から得た新たな情報は、すぐケアに活かしていけるように取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、積極的に聞くようにし、相談のうえ、運営に反映させている。職員会では意見を出し合い、出された提案、意見は吸い上げ、よりよい運営に活かしている。言いやすい関係ができています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境にあり、勤務の継続につながっている。向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。子育て中の職員の応援には、特に配慮している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は、職員に情報を出し、参加する機会をつくっている。参加者は研修報告書を出し、質の向上に活かしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を持ち、お互いの良い点を取り入れるなど、サービスの質の向上に努めている。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と十分に話し合い、戸惑うことなくホーム生活が送れるように傾聴し、受け止め信頼関係が築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム生活に馴染めるか不安に思っている想いを受け止め、安心していただけるように何事も隠さず相談しながら対応しており、信頼関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を理解し、戸惑うことなく生活が送れるようなサービス利用の対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学ぶことも多く、「共に過ごし、学び、支え合う」関係づくりができつつある。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めたうえで、家族が疎遠になることがないように、交流の機会を設けたり、面会をお願いする等働きかけている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の訪問がある。本人の付き合いが続けられるように温かく迎え入れ、馴染みの関係が途切れないように支援している。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな利用者にも、はたらき続けたところ、ホールで過ごせるようになり、笑顔が見られる等、他者との会話もできるようになった。本人、家族にも喜ばれている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ホームとの関わりを希望される家族等には、安心していただけのように、関係を断ち切らないで付き合いを大切にしている。（お見舞いや電話連絡等）
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意向は出てこない入居者についても本人の心の奥に思いをいたし、何かしてあげられることはないか意見を出し合っている。入居時の情報をもとに、家族、本人に働きかけを繰り返し行って、本人の可能性を引き出している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個々の情報、生活歴を家族からの聞き取りで把握に努め、入居者の生活を活かした支援ができるように努めている。「私の暮し情報…」に要約して整理しており、それをもとにコミュニケーションを図ったり生活支援に活かしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で個々の過ごし方や、有する能力、心身の状態等、現在の状況を総合的に把握するように努めている。朝・夕の申し送りで情報を共有している。変化があれば、その都度話し合い内容と対応を共有できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあった計画作成に努めている。定期的に話し合い、それぞれの見方、考え方の意見交換を行い、家族の思いも取り入れた計画を作成している。大きな変化が有る無しに関わらず、3か月ごとに計画を作成している。

グループホームひまわりの家（Ⅲユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を充実させ、その内容（情報）を共有することで、ケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能ホームが併設されており、その日の利用状況により、グループホームからも交替で、レクリエーションなどに一定時間内参加できている。小規模多機能ホーム利用者の訪問もあり、交流が図られている。面会時間には配慮しており、いつ来ても良いようにしている。外出や外泊についても柔軟に対応している。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの協力が得られ、より豊かな暮らしが楽しめるように支援している。また、消防訓練の協力も得られている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得している医療機関での診察や往診が適切にされており、受診時の送迎援助も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能ホームの看護師との連携もあり、また看護職員がグループホーム内に配置されており、日常的に健康管理に留意している。支援医療機関と連携し、医療活用の支援をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人に関する情報の提供やケアについて添書を送付し、安心して治療が受けられるように関係づくりを行っている。早期に退院できるように、医師との連携に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、支援医療機関や施設責任者、家族等を交えて話し合いの機会を設け、希望に添えるように体制を整えており、方針を共有している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静な判断のもと、確実に適切な行動が取れるように、緊急時の対応マニュアルに添った対応ができるように、実践力を身につけるように努力している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練は、年2回行っている。訓練には地域の人々や、他の事業所の協力が得られている。ボランティア、職員、入居者で協力して、全入居者分の防災頭巾も作り、備え付けている。災害時には、地域住民の受け入れについても具体化する体制を検討している段階にある。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねるような声かけをしないよう、職員同士で注意し、声をかけあっている。トイレや入浴介助時のプライバシーに配慮した空間の確保や、居室はノックしたうえで、入居者の了解を得てから入室するなど周知している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が決定できるように選択肢を提示し、声かけしている。外出希望にも添えるように支援している。意思疎通が困難な方については、表情などを読み取るようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを尊重し、その日の体調を見計らい、その動きや状態に合わせた関わりで、1日の過ごし方を希望に添って支援している。行事の参加についても、本人の意向を伺い尊重している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所訪問の美容師を利用する方もありますが、馴染みの美容院へ出かける方もあり、送迎を援助している。家族と共に出かけ、おしゃれ、交流を保つ日としている方もいる。

グループホームひまわりの家（Ⅲユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつが楽しみとなるように目の前で作ったり、一緒に下ごしらえや野菜の切り込み等も可能な範囲内で行っている。食器洗いも進んでしてくれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作っており、バランスの取れた食事内容が提供できている。水分量の確保に努めている。好き嫌いの把握により、好みの物を提供したり、調理に工夫をこらしている。嫌いな物については、出さずに他の物を提供している。本人の意向に添った食事提供を心がけている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じたケアのサポートをしている。声かけで見守りや、介助にて口腔ケアを行い清潔保持に努めている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで用をたす、気持ちよく排泄するために定期的な誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンに添った支援を行っている。全く失禁がなくなった方もおられる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、緩下剤の適切な使用などにより適切に対応している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特殊入浴は、週2回行っているが、他にも手、足浴も取り入れている。普通入浴も週3回以上で、希望があればいつでも入れるようにしている。拒否することがあっても、再度時間を置いてから声かけをしている。本人の「入りたい」タイミングに合致するように、時間差で声かけをチャレンジしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとってのリズムを見極め、必要な休息や睡眠がとれるように支援している。

グループホームひまわりの家（Ⅲユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬のファイルを作り、薬の目的や副作用等が把握できるようにしており、分包することで飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みができています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でそれぞれが好きなこと、得意なことでも役割を持ってもらっている。感謝の言葉を伝え、次の意欲を引き出している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出や全体での外出も計画して、戸外に出かけられるようにしている。家族の方もお墓参り等に連れ出してきている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できている方もおられる。自分で所持しておらず、ホーム側で管理している方については、支払い時には、お金を自分から払うように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望した折には、自分で直接話ができるように支援している。暑中見舞いや年賀状は、職員の指導を受けながら家族や友人あてに書きあげ、投函の手伝いをしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や作品を飾り、落ち着いた空間をつくりだしている。季節に応じ工作し、作品を展示できるスペースもある。職員と共に展示作品を作り飾っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはくつろげるソファを置いてあり、サンデッキもあることで個々にゆったり過ごせている。大きな食卓では、縫い物や趣味が楽しめるようになっている。

グループホームひまわりの家（Ⅲユニット）

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、暖かい雰囲気のある居室づくりができています。協力が得られない家族については、職員が工夫して居室づくりをしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用し、自らリハビリを行ったり個々にあった椅子を置くなど、安全な環境づくりができています。